

令和 7 年度 運営に関する計画

最終評価

大阪市立天下茶屋中学校

令和 7 年 4 月

大阪市立天下茶屋中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

「いじめのない学校づくり」を推進している。いじめの解消率については、毎年100%を維持する。

・校内外における暴力行為発生件数は年々減少傾向にある。今後も、校内外における暴力行為発生件数の減少に努める。

・「学校の規則を守るようにしている」生徒は増加傾向にあるが、学校内外での問題行動の発生件数の減少に努める。

・不登校生徒数のさらなる減少に努める。

・道徳教育を推進し、人の心の痛みを理解し、道徳的行動のとれる生徒の育成に努める。

・「全国学力・学習状況調査」において、各調査項目とも平均正答率は全国平均を下回っているが、差は少しずつ縮まってきている。また、平均無解答率において、国語、数学において全国よりも低くなっている。

・「中学校チャレンジテスト」において、教科の平均点数が大阪府平均を下回っているが、点数の差は縮まってきている。また、無回答率は府平均より若干高い。

・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、体力合計点が男女とも全国平均を上回った。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

・令和7年度末の校内調査で、学校で認知したいじめについて解消した割合を100%にする。

・毎年度末の校内調査において、暴力行為を行う加害生徒数を、全校生徒の2%以下に保つ。

・毎年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上に保つ。

・令和7年度末の校内調査において、不登校生徒数を、全校生徒の10%以下にする。

・令和7年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目において、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

・全国学力・学習状況調査における平均正答率を、対全国比で国語については0.9以上、数学Bについては0.85以上になるようにする。また、無回答率を令和6年度より減少させる。

・中学校チャレンジテストにおける全体平均点を、前年度より3点向上させる。

(R6 42.9点) また、無回答率を減少させる。

・全国体力・運動能力・運動習慣調査における各学年の合計得点を、R6年度より3.2点、向上させる。(R6 44.6点)

【学びを支える教育環境の充実】

・令和7年度末の構内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を90%以上にする。

・ゆとりの日については、週1回以上設定する。

学校閉庁日については、夏季休業期間、冬季休業期間中は3日以上設定する。

・図書館を放課後、朝の時間に週3日以上開放し学びを支える教育環境の充実につなげる。

- ・教職員の働き方改革に関する目標を設定する
 - ・4～11月の8か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2(※1)を満たす教員の割合を40%以上にする。
 - ・今年度の4月～11月までの8か月間の時間外勤務において、教員全体で100hを超える人数を0人とする。また、教員全体での時間外超過勤務の平均を50h以下にする。

※1（教育委員会が示す基準2）

次のア～エを満たす教員の割合

- ア 1年間の時間外勤務時間が720時間(月平均60h)を超えないようにすること。
- イ 1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を1年間に6回までとすること。
- ウ 1か月の時間外勤務時間が100時間を超えないようにすること。
- エ 連続する2～6ヵ月について、時間外勤務時間の1か月当たりの平均が80時間を超えないこと。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を76%以上にする。
- ・年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ・「健やかで豊かな心を育む教育」の充実に向けて、「人権」・「平和」・「国際理解」・「命の大切さ」について考える取組や、「人や自然と触れ合う」・「芸術に触れる」行事を推進する。
- ・令和7年度末の校内調査において、「学校生活が楽しい」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。
- ・令和7年度末の校内調査において、「しっかりあいさつをしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を85%以上にする。
- ・令和7年度末の校内調査において、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項で「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を29%以上にする。
- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
- ・大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を50%以上にする。
- ・年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすること好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を57%以上にする。

学校園の年度目標

- ・学校図書館を授業で活用するとともに、毎日放課後開館し、生徒の自主的な利用をととして学力向上に結びつける。
- ・令和7年度末の校内調査における「学校の授業は分かりやすい」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を65%以上にする。
- ・令和7年度末の校内調査における「宿題をきちんと提出した」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。
- ・部活動の活性化を図り、入部率を60%以上にする。
- ・生徒一人ひとりが自己の健康維持について認識を高めるため、保健指導や食育を推進する。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕

学校園の年度目標

- ・図書館を放課後に週3日以上開放し、学びを支える教育環境の充実につなげる。
- ・年度末の校内調査の「時間を見つけて読書をしている」の項目について、肯定的な回答を40%以上にする。
- ・教職員の働き方改革に関する目標を設定する
 - ・4～12月の9か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2(※1)を満たす教員の割合を58%以上にする。
(R5年度33.33%、R6年度57.69%)
 - ・今年度の4月～12月までの9か月間の時間外勤務において、教員全体での時間外超過勤務の平均を38h以下にする。(R5年度49h32m、R6年度39h03m)

令和6年度														
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
0h ≦ x ≦ 45h		10	9	11	13	24	13	12	13	19				平均 14
45h < x ≦ 60h		4	6	8	4	1	5	7	6	7				計 48
60h < x ≦ 80h		9	8	5	7	0	7	4	5	0				5
80h < x ≦ 100h		1	1	0	0	0	0	2	1	0				0
x > 100h		0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
80h以上		1	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	5
全数		24	24	24	24	25	25	25	25	26	0	0	0	222
割合(小数)		0.04	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.04	0.00	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	0.02
80h以上の割合(%)		4.2	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	4.0	0.0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	2.3
12月時点での学校全体							12月時点での基準2の達成率							
		R5年度		49h32				R5年度		33.33%		(27人中9人)		
		R6年度		39h03				R6年度		57.69%		(26人中15人)		
		R7年度						R7年度						

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

2学期の生徒アンケートでは、「学校のルールを守るようにしている」は94%で肯定的な回答を保つことができた。また、「学校生活は楽しいと感じている」という項目について肯定的な回答をした生徒の割合は85%で、昨年度より5ポイント上回った。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

2学期の生徒アンケートでは、「宿題をきちんと提出している」は84%で70%以上の肯定的な回答を保つことができた。また「学校の授業はわかりやすい」という項目について肯定的な回答をした生徒の割合は88%であり、昨年より10%上回ることができた。今後もこの状況を維持していく。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・図書館開館は放課後、朝の時間などを合わせると、平日ほぼ毎日できており、目標を達成することができた。
 - ・教職員の働き方改革に関して
4月～12月までの9か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2（※1）を満たす教員の割合を58.62%と目標の58%を上回る結果となった。（R4年度30.00%、R5年度37.04%、R6年度57.69%）
 - ・今年度の4月～1月までの10か月間の時間外勤務において、教員全体で100hを超えた教員は0人で目標を達成した。（R4年度15人、R5年度1人、R6年度0人）また、教員全体の時間外超過勤務の平均は37h18mと目標の38hを下回り、目標を達成することができた。（R4年度56h31m、R5年度50h36m、R6年度38h05m）
- 教員の仕事量や負担はあるものの会議の精選、仕事の効率化、部活動支援員の活用などで効果が表れたと考える。

令和7年度														
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均	計
0h ≤ x ≤ 45h	13	15	16	12	25	16	15	18	20	16	0	0	17	166
45h < x ≤ 60h	5	9	9	9	4	6	4	9	9	9	0	0	9	73
60h < x ≤ 80h	9	5	4	8	0	7	9	2	0	4	0	0	3	48
80h < x ≤ 100h	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
x > 100h	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80h以上	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
全数	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	0	0	29	290
割合(小数)	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00			0.00	0.01
80h以上の割合(%)	6.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0			0.0	1.0
12月時点での学校全体							12月時点での基準2の達成率							
R6年度				38h05m			R6年度				57.69%		(26人中15人)	
R7年度				37h18m			R7年度				58.62%		(29人中17人)	

(様式2)

大阪市立天下茶屋中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を76%以上にする。 ・年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 学校の年度目標 ・「健やかで豊かな心を育む教育」の充実に向けて、「人権」・「平和」・「国際理解」・「命の大切さ」について考える取組や、「人や自然と触れ合う」、「芸術に触れる」行事を推進する。 ・令和7年度末の校内調査において、「学校生活が楽しい」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。 ・令和7年度末の校内調査において、「しっかりあいさつをしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を85%以上にする。 ・令和7年度末の校内調査において、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目で、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を85%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策2、道徳心・社会性の育成】 人権を尊重する教育に関わる講話や体験学習を実施する。 指標 人権教育(いじめを含む)・平和教育・性教育について講師を招き、それぞれ1回以上講話や体験学習を実施する。	B
取組内容②【施策2、道徳心・社会性の育成】 人や自然と触れ合ったり、伝統文化・芸術を鑑賞する機会を持つ。 指標 芸術鑑賞を1回実施する。また、フィールドワーク、園芸や緑化活動を通じて人や自然と触れ合う。	B
取組内容③【施策2、道徳心・社会性の育成】 生徒会が中心となる行事をとおして、生徒同士が互いに支え合う集団を育成する。 指標 小学校児童との交流会(年1回)やボランティア清掃(学期に1回)などを	B

生徒会が企画し、生徒同士が協働することにより、互いに支え合う集団を育成するとともに、生徒一人ひとりの道徳性や社会性を育成する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
日々の教育活動を各担当教員が高い人権感覚を持って推進している。全校生徒に 8 月 6 日に平和人権登校日を実施し、全校集会の後、学年ごとに平和学習を行った。12 月に芸術鑑賞会を実施した。3 年生で助産師を招き性教育を実施。2 年生は職場体験を実施。生徒会活動では、赤い羽根募金運動、児童見学交流会を実施した。様々な活動を通して「学校生活は楽しい」という肯定的な回答を 80%以上を保つことができた。	
次年度への改善点	
今後の予定として、1・2 年生で性教育の実施を予定している。 次年度は、様々な教育活動について精選し、さらに充実した取組を実施していきたい。	

(様式 2)

大阪市立天下茶屋中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 29%以上にする。 ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。 ・大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を 50% 以上にする。 ・年度末の校内調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすること好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 57%以上にする。 学校の年度目標 ・学校図書館を授業で活用するとともに、毎日放課後開館し、生徒の自主的な利用をと おして学力向上に結びつける。 ・令和 6 年度末の校内調査における「学校の授業は分かりやすい」の項目について、「当てはまる (どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 65% 以上にする。 ・令和 6 年度末の校内調査における「宿題をきちんと提出した」の項目について、「当てはまる (どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 90% 以上にする。 ・部活動の活性化を図り、入部率を 60% 以上にする。 ・生徒一人ひとりが自己の健康維持について認識を高めるため、保健指導や食育を推進する。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策 5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 家庭学習課題を計画的に出し、やりきらせることで学力を向上させる。 指標 令和 7 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。	B
取組内容②【施策 5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 研究授業を含む校内研修を充実させ、教員の指導、学校力を高め、生徒の学力向上に結びつける。 指標 全教員が 1 回以上研究授業を実施する。校内研修会を年に 8 回以上実施する。	B
取組内容③【施策 7、健康や体力を保持増進する力の育成】 保健指導、食育を一層推進し、生涯に渡り健康であるための意識を育てる。	

指標 「ほけんだより」「食育つうしん」を毎月発行し、学級活動などで活用する。 生徒が中心となり学校保健委員会を実施する。今年度は、小中合同の開催を目指す。	B
取組内容④【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】 新体力テストを全学年で実施し、体力の向上を図る。運動部活動への入部率を高め、 体力の向上を図る。	B
指標 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、全種目とも全国平均を目指す。 運動部活動入部率を令和6年度よりも向上させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
研究授業実施の月を、原則1年生と2年生は2学期、3年生は1学期と学年ごとに設定した。生徒アンケートの「部活動に積極的に参加している」に対して肯定的な回答が65%と昨年度の61%を上回ったが70%に達しなかった。	
次年度への改善点	
今年度の取組を継続しつつ、校内での研究授業週間を活用して教科の枠を越えて交流し授業力を高めいく取組を行い、基礎学力の定着に努める。読書活動を推進していく。	

(様式2)

大阪市立天下茶屋中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を27%以上にする。 学校の年度目標 ・学校閉庁日については、休業期間中に3日以上設定する。 ・図書館を放課後、朝の時間に週3日以上開放し、学びを支える教育環境の充実につなげる。 ・年度末の校内調査の「時間を見つけて読書をしている」の項目について、肯定的な回答を40%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ・学習者用端末を活用した個人学習を月1回以上実施する。 ・本校の年間計画に沿って、ICT機器を活用した学習を月1回以上実施する。 ・学校施設設備・学習環境・学習ツール等を整備し、教員・生徒がICT機器を活用する力を育成する。 指標 ICT機器の活用研修を年1回以上実施する。	B
取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・スクールサポートスタッフを有効に活用できるよう業務依頼を計画的に行い、職員の負担を減らす。 ・会議案件を伝達事項と協議事項に分けて、会議を効率よく進行し時間の短縮化を図る。 指標 職員会議の時間を年度当初より年度末の方が短縮できるようにする。	B
取組内容③【8 生涯学習の支援】 ・学校図書館の活性化を図り、読書活動を推進する。読書カードを活用して、文章を読む習慣の定着を図る。 指標	B

校内調査において、「時間を見つけて読書をしている」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を1%増加させる。	
取組内容④【9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 ・保護者や地域の方と連携した学習活動や、PTA、学校協議会、非行防止連絡協議会、人権教育ネットワーク等の活動を推進する。 指標 年度末の保護者アンケートの「学校は教育内容を家庭に発信する機会をよく設けている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、令和6年度より1ポイント増加させる。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
今年度も読み聞かせ運動の一環として給食の時間を活用して全校一斉の「ランチタイム放送」を月に2回実施した。 働き方改革を推進するために、「ゆとりの日」設定を増やしながら、会議時間を短縮するなどの取組を行っていく。	
次年度への改善点	
図書館を積極的活用できる機会を増やすことで、読書活動を推進していく。	

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(1) 国語

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【興味関心の向上】導入教材を工夫したり、話し合いや作文のテーマを工夫したりして、生徒の興味・関心を引き出す。	B	B
② 【個に応じた指導】個々の学力に合わせて添削やコメントを書き、やる気を引き出す。習熟度別にプリントを用意するなど、きめ細かな対応を行う。	B	
③ 【言語力の育成】日常的に読書を取り入れ、多様な表現や様々な考え方に出席させる。自分の意見を述べたり、書いたりする機会を大事にする。言葉を推敲する経験を増やす。	B	

結果と分析

- ① 俳句や短歌など、自分で創意工夫して作った作品を披露し、批評してもらう機会を設けることができた。各学年、意欲的に取り組んでいた。
- ② プリントができた生徒から順にわからない生徒のサポートに回す、もしくは発展プリントを解かせるなどして、学力の高い生徒が手持ち無沙汰にならないように工夫している。どの学年でも提出物に丁寧にコメントを書き、学習を励ましたり改善を促したりと個々に合わせたサポートができた。
- ③ ビブリオバトルやPowerPointを用いて自作の短歌を発表するなど、自分の考えを発表する機会を設けることができた。

次年度への改善点

一人一台端末を活用し、プレゼン能力の更なる向上を目指す。

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(2) 社会

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
 C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【興味関心の向上】授業に新聞記事、時事問題等を活用して社会的事象の紹介を取り入れ、学習内容と関連付けを図る。	B	B	
② 【個に応じた指導】 資料集や、I C T機器を使用した視聴覚教材の活用を取り入れる。	B		
③ 【言語力の育成】各分野における「調べ学習」を取り入れ、「課題意識をもつ」「調べる」「読み取る」「考える」「まとめる」「発表する」といった言語活動に取り組む。	B		
④ 【自主学習習慣の定着】家庭での反復学習ができるような教材の作成と、定期テストとのリンクを図り、基礎学力の向上を目指す。	B		
⑤ 【基礎学力の定着】 タブレットドリルや小テストなどで学習内容の確認、定着をはかる。	B		
結果と分析			
①②③ I C T機器を活用し、資料、グラフ、新聞記事などを提示して、生徒が興味を持つ授業の展開に努めている。また、一人一台端末を使用し、調べ学習を通して、課題発見・解決能力の育成をすることができている。また、自らの考えをまとめる時間を設け、主体的な学習を取り入れることができている。			
④ ワークシートや東書ライブラリ等を活用し、家庭での反復学習ができるように努めてきた。			
⑤ 小テストや発問の工夫を図り、基礎・基本的な知識の定着をさせることができるように、取り組むことができている。また、タブレットドリルを活用している。			
次年度への改善点			
I C T活用を継続しつつ、生徒が興味・関心を持ち、生徒自ら学ぼうとする授業づくりをして、生徒の基礎学力向上を目指したい。			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(3) 数学

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【興味関心の向上】教材を工夫するとともに、定期的に小テストを実施するなどして、学習意欲の向上を図る。学習に関するアンケートで「分かる」を、60%以上を目指す。	A	B	
② 【個に応じた指導】生徒が個々に独力で取り組めるよう教材・課題作りに努める。また、課題については細かく点検し、その結果を生徒にフィードバックする。	B		
③ 【言語力の育成】数学を活用して、「授業内発表」など、互いに自分の考えを伝え合う活動を意図的に設定する。	B		
④ 【学び直しの機会】既に指導した内容を意図的に取り上げ、復習をすることで理解を深めていく。	B		
結果と分析			
①授業アンケートにおける「授業の内容の習得」に対して肯定的な回答の結果が 89.4% (3 学年の平均)であったため、達成できた(1 年生 80.2% 2 年生 95.1% 3 年生 94.7%)。デジタル教科書の提示やパワーポイントなどを用いた授業を展開し、視覚的に見せることで問題をイメージさせ、少しでも興味関心をもってもらえるように心掛けた結果と考えられる。			
②年間を通して、毎授業後に家庭学習ができるようにプリント配布を概ね行うことができた。また、定期テスト前にも自発的に復習や発展問題に取り組めるようにプリント配布や補習を行うことができた。			
③今年度は単元によって偏りも生じたが、研究授業等で概ね行うことができた。来年度以降も単元により、数学的な用語を用いてペアワークやグループ活動を予定している。			
④授業の最初に宿題の答え合わせ、復習プリント、前時のポイントを毎回行った。学びなおしの意識を持つことができ、生徒が授業に理解を持って取り組めるように展開した。			
次年度への改善点			
来年度も一人一台端末を使用したり、ペアワークやグループワークの授業展開を取り込めるようにする。			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(4) 理科

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
 C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達

成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【興味関心の向上】教科内容を身近な事象と関連づけて導入する。また、実験を年間20回以上行い、興味・関心を高めて理解を深める。	B	B
② 【個に応じた指導】習熟に応じた練習問題の作成や、放課後などを利用して補習を行う。	B	
③ 【言語力の育成】実験や観察のレポート作成を通じて、結果や考察の表現方法を身に着けさせる。	B	
結果と分析		
① 実験は、生徒実験・演示実験併せて、現時点で1年生は15回、2年生は13回、3年生は理科Aと理科B合わせて7回行うことができた。目標には少し届かなかった		
② 習熟に応じた練習問題は実施できていないが、補助教材は適宜作成し、授業で活用できた。		
③実験・観察のレポートは、各実験時に全員に作成させている。結果のまとめ方や、考察のし方も少しずつに身についた。		
次年度への改善点		
実験を積極的に行い生徒の理解を深めていくよう努力する。		

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(5) 音楽

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
 C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況
① 【興味関心の向上】教師の模範演奏、映像教材などを使って、興味・関心を持って意欲的に取り組めるよう工夫する。	B	B
② 【個に応じた指導】一人ひとりの演奏を聴く時間を作り、それぞれの声域に合わせたきめ細かな指導に努める。	B	
③ 【言語力の育成】歌詞が表す情景や心情を感じ取ったり、リズム・旋律・形式・構成などの音楽を構成させている要素に注目しながら、言語を生かした表現ができるような指導に努める。	B	
結果と分析		
① デジタル教科書を積極的に活用し、視覚的にも理解しやすいよう工夫している。また一人一台端末を調べ学習等で活用している。 ② 全学年、学期ごとに歌唱と、アルトリコーダーの実技テストを実施している。実施後は自己評価をし、教師からはアドバイスのコメントをしている。 ③ 歌詞の朗読を生徒にさせ、歌詞が表す情景や心情を感じ取るようにしている。また鑑賞の際は感想文や、紹介文を書かせて、言語を使って表現する取り組みをしている。表現の多様性を感じる工夫をしている。		
次年度への改善点		
・一人一台端末を活用し、生徒が主体的に考え、それらを発信できる場面を増やせるようにする。		

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(6) 美術

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【興味関心の向上】参考作品や ICT 機器を効果的に使い、完成を具体的にイメージさせることで、制作活動に意欲を持たせる。	B	B	
② 【個に応じた指導】個性を生かせる題材を選び、各自で主題を決定し、個々が満足のいく作品に仕上がるように指導をする。また、個人差を考慮した指導に努める。	B		
③ 【言語力の育成】スケッチやワークシートを利用し、言葉と作品の関係を関連付ける題材を取り入れる。言語での表現が苦手な生徒も、相互鑑賞などを通して他者がどのような言葉で表現をしているのかを知り、参考にすることができる場を持たせる。	B		
④ 【表現力の育成】時間をかけ完成度の高い作品を目指すことで、表現の基礎的、基本的な能力を身に付けさせる。また、鑑賞の活動を通して、様々な表現方法があることに気づかせ、自らの作品制作に活かすことができるように指導を行う。	B		
結果と分析			
① 時間のかかる作品の制作にあたっては、完成イメージと制作過程を段階的に提示し、生徒が見通しをもって制作できるようにした。生徒は概ね「自分もやってみたい」「自分だったらどうするか」と意欲を持って取り組んでいたようである。			
② 題材については、「おみやげのパッケージデザイン」「会社のロゴマークデザイン」など、社会・他者を意識し、その中で個性を生かせるものを設定した。作品制作において発想や技術面で躓いている生徒については、個別で対応しながら進め、作品を完成させることができた。			
③ 色や形と言葉との関連を重視し、表現意図を文章で表現できるように指導した。相互で作品を鑑賞・発表する場面では、お互いの作品や文章表現で良いと思った部分は取り入れていくように促した。			
④ 制作のための時数はできる限り確保した。着彩の方法や鉛筆の扱い方、遠近法などの基礎的な技法は制作を通して繰り返し指導した。また、制作の前に参考作品の鑑賞の機会を作り、背景の塗り方や構図など、幅広い表現に触れられるようにした。			
次年度への改善点			
・一人一台端末の活用について、引き続き、アイデアの安易な模倣とならないよう指導していきたい。また、AI による写真やイラストの生成技術が普及しつつある。生成過程で著作権や肖像権の侵害が起こり得るということなど、日常生活の中での正しい使い方については指導していく必要があるのではないかと考えている。			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(7) 保健体育

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎体力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【興味関心の向上】	視聴覚教材などを使用し指導を工夫することで、運動の楽しさを味わい、技能習得を図る。小さな成功体験を多く経験させる。	A	B
② 【個に応じた指導】	新体力テストを全学年行う。基礎体力・運動能力を高めるために、記録カードを作り、目標設定をした上で記録向上に取り組む。基礎体力の向上のため、毎回の授業で補強運動を行う。	A	
③ 【言語力の育成】	言語活動を取り入れ「グループ学習」を実施することで互いに指摘や協力をしながら、運動技能の向上を図る。	B	
④ 【集団生活】	リーダー育成のため体育委員を中心に授業を進める。ランニングや行進、ラジオ体操など集団行動を大切にし、授業だけでなく、集団の一員としての役割や責任を認識させる。	B	
結果と分析			
① 体育分野と保健分野どちらも視聴覚教材等を使用し指導を工夫した。 一人一台端末を活用し、生徒自身が自分の動きを確認することで大きな効果が得られた。			
② 5～6月に全学年新体力テストを実施した。また基礎体力向上を目指し 毎授業で補強運動を行った。男子は握力、上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳びにおいて全国平均及び大阪市平均を上回る結果となった。女子は上体起こし、反復横跳び、20mシャトルラン、立ち幅跳びにおいて全国平均及び大阪市平均を上回る結果となった。			
③話し合うことや教えあうことで運動技能の向上を図ってきた。			
④体育委員の指示・号令のもと、集団行動を意識しながら授業に参加していた。			
次年度への改善点			
・引き続き、小さな成功体験を多く経験させるため、段階を踏んだ指導を意識していく。 ・今後も継続して取り組んでいく。 ・前年度に引き続き、少しずつ用器具を充実させていきたい。 用具によっては経年劣化しているであろうものもあるため、定期的に点検していく。			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(8) 技術家庭

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【興味関心の向上】日常生活に生かせる知識や技術の習得をめざし、授業内容を精選する。	B	B
② 【個に応じた指導】生徒一人ひとりの能力や長所を励まし、作品の合評などを取り入れ、生徒が互いに高めあえるよう援助する。	B	
③ 【言語力の育成】文章や口頭による発表を多く取り入れ、理解した事柄や感想をわかりやすく伝える能力を養う。	B	
④ 【情報モラルの定着】生徒の日常生活におけるコンピューターや携帯電話などの使い方を確認し、情報化社会の中で正しく判断し行動できるよう情報モラルの定着をはかる。	B	

結果と分析

- ①日常生活に生かせる知識技能の習得をテーマに授業展開を進めることができているので、引き続き意識して授業に取り組む。
- ②実習中の机間指導を意識し、個に応じた指導をこれからも心掛ける。
- ③文章発表を行う機会を設けることは少しできたが、更に設けられるように改善していく。文章表記の作品評価は行えているので引き続き実施していく。
- ④情報モラルについては、情報化社会の中で正しく判断し、正しく発信することができるように指導を続けていく

次年度への改善点

今後も継続して取り組んでいく。

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(9) 英語

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【興味関心の向上】 I C T機器の活用など、教材を工夫して作成する。日常生活の身近な場面と関連づけて、興味関心を引き出す。	B	B	
② 【個に応じた指導】 T Tまたは習熟度別授業を行い、よりきめ細やかな指導を行い、基礎基本の定着をはかる。基礎学力の定着をはかるため、基本的な内容の教材の作成、小テストなどの実施をする。	B		
③ 【言語力の育成】 C－N E Tとの連携で、コミュニケーション能力を高める4技能5領域（聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くこと）が身につくようにする。	A		
結果と分析			
① 視覚的にも理解しやすいようにデジタル教材を積極的に使用した。また、教材に関しても興味がわくような題材や自分自身の考えを英作させたり、より身近で取り組みやすい題材で授業展開した。 ② 全学年で T T を実施した。 各学年で生徒の実態に合うように工夫し、プログラムのパート毎で単語テストや基本文の小テストなどを各学年に応じ工夫して実施した。また、パフォーマンステストとして暗唱テストや発表なども実施し基礎学力の定着を図った。 ③ C-NET との T T に関しては、1 学期は 3 年生、2 学期は 2 年生で実施し、1 年生は 3 学期に実施した。また、話すこと「やり取り」・話すこと「発表」の取り組みの機会も設けた。			
次年度への改善点			
・基礎学力定着のために教材や指導法を研鑽していく。			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(10) 道徳

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【生活習慣】教材や日々の生活点検、学年集会や朝の活動などを通して、望ましい生活習慣を身に付ける大切さを知り、調和のある生活を目指す。	B	B	
② 【自主・自律】日々の学校生活の中で、規律を重んじ、集団の中で他者を意識する態度を養う。また、道徳教育と特別活動や学校行事などに関連させて、物事に積極的に参加し、責任を持つ行動する態度を育てる。	B		
③ 【生命尊重】読み物教材、視聴覚教材などを使って、自然・生命の尊さを理解し、自他の生命を尊重する態度を育てる。	B		
④ 【正義・公正・公平】教材を通していじめの愚かさを知り、無関心にならず、不正な行動やいじめを許さない態度を育てる。	B		
結果と分析			
① 毎朝生徒会と生活委員があいさつ運動を行うことができた。また、全校集会や各学年の集会を通じて規範意識を向上させてた。			
② 学級代表や委員会生徒が中心となり、学校行事だけでなく、学年の取り組みにも積極的に参加し、他者を思いやりながら、共に成長する心を養うことができた。			
③ 修学旅行や校外学習を通じ、自然の尊さや生命の尊さを学んだ。さらに、読み物教材の授業の際は、積極的に視聴覚機器を取り入れるようにした。			
④ 学年ごとに生徒の実態に合わせて教材を選び、道徳の授業を進めることができた。			
次年度への改善点			
継続して取り組んでいく。			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(11) 特別活動

目標 集団を意識させ、個々の責任感や充実感を高める。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【生徒会】学校生活の充実に向け、行事の進行・運営に積極的に取り組み、規律ある集団づくりを推進する。	B	B	
② 【生徒委員会】各委員会で毎月の目標の作成や活動を明確にし、主体的に行動するよう働きかけ、クラスや学年に貢献させる。また、生徒議会での委員会の連携をつくり、生徒に浸透させる。	B		
③ 【学級経営】終学活や清掃・係活動など校内における活動で、各々が役割をもって取り組み、また事後反省をさせることで、社会の一員としての自覚と責任をもたせる。常に集団を意識させた生活を送る。	B		
④ 【学校行事】体育大会や文化発表会をはじめとする学校行事では、集団としての意識を持たせ、生徒主体で様々な取り組みを進めさせる。	B		
結果と分析			
①生徒会活動や生徒議会等で、個人の責任感を高め学級・学年・学校の代表であるということを日頃から意識させることができた。			
②各委員会で委員となった生徒に責任感や使命感をもたせ、取り組ませることができた。			
③日々の活動のなかで、自分の役割に責任を持たせ、集団のなかの一員として行動することができた。			
④体育大会等の行事を通じて、集団行動の意味や大切さを知ることができた。			
次年度への改善点			
生徒会役員や委員会の生徒が、より責任を持ち活動に取り組めるよう働きかけていく。			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(12) 総合的な学習

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【すすんで取り組む活動づくり】自ら学び考える力、主体的に取り組む力を養い、問題を解決する資質や能力を育てる活動をすすめる。	B	B	
② 【個性を引き出す指導】体験学習を通してさまざまな考え方を学び、生徒一人ひとりが主体的、創造的に取り組む態度を育てる。	A		
③ 【表現する力の育成】自ら体験し考えたことを文章や発表にまとめ、自分の考えや気持ちを伝えることのできる能力を育てる。	B		
結果と分析			
① 体育大会・文化発表会の目標を立てさせて実施できている。			
② 行事に向けての総合的な学習の時間を通して、生徒一人ひとりが自分自身のよさや可能性を実感することができている。また行事の成功を他者と協力して目指すことができ、「学びに向かう力」を培うことができている。			
③ 行事ごとに感想文を書き、学年で共通理解を図っている。文化発表会では各学年、総合の時間を活用して、表現する力の育成に取り組むことができた。			
次年度への改善点			
・ 上記取り組み内容を改善、継続し取り組んでいく。			
・ 学年の取り組みを活用して、引き続き自ら学び考える力、主体的に取り組む力を養い、自分の考えや気持ちを伝えることのできる表現できる力を養っていきたい。			
・ 総合的読解力育成の取り組みを、各教科、分野、領域と連携して取り組んでいく。			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(13) 特別支援教育

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

成できなかった

取組内容（指標）		達成状況
① 【興味関心の向上】障がいを持った生徒が、興味を持って取り組める教材や学習活動を工夫し、自立活動や自立訓練を活発に行う。	B	B
② 【個に応じた指導】社会的な自立を目標に、一人ひとりの持っている可能性を最大限に伸ばすための個別最適な学習指導を進める。	A	
③ 【言語力の育成】「読み」「書き」「話す」の言語活動を中心に、基礎的な授業展開を中心に行い、自立活動や自立訓練を取り入れて自尊心の向上に努める。	B	
④ 【小中高連携】小学校や高等学校、関係諸機関との連携を積極的に行い、特別に支援が必要な生徒の情報を共有する。特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーとの連携も十分に行う。	A	
結果と分析		
① 生徒一人ひとりにあった教材を選び授業時間の分割や時間割などを工夫して取り組めている。ITC タブレット端末での学習にも取り組むことができています。 ② キャリア教育センターの活用によるキャリア教育（社会的自立）や、個の学習状態に合わせて学習をすすめている。2年生では地域の協力会社への職業体験にも参加している。 ③ 朝の挨拶、授業間の号令、授業内での朗読、行事への取り組みなどを通じて、自分の気持ちを表現できるようにしている。授業の終わりには授業の感想を伝えることができています。 ④ 次年度の入級予定者や進学相談を夏休みから行い、小学校のコーディネーターと連携して次年度へ向けた準備をすることができている。		
次年度への改善点		
・ 特別支援学級在籍生徒が興味を持って取り組める教材や学習活動を引き続き工夫して個に応じた指導、個別最適な学習指導を実践していきたい。 ・ 特別支援学級と管理職を交えた特別支援の打ち合わせを後期も定期的に行い、特別支援学級在籍生徒の情報共有に努めていく。 ・ 小中連携をさらに深めて、次年度入級生徒の情報を学校内で共有していく。		

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(14) 人権教育

目標 命を大切にする心や多様な人と共生する態度を養い、人権意識の育成に努める。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【命を大切にする心を養う】平和学習や命の教育を通じて命の大切さを学び、互いを思いやる心を育成する。	B	B	
② 【学びの仲間と共存する態度を養う】人々の多様性を知り、互いに助けあい、日々の活動に取り組む態度を育成する。	B		
結果と分析			
① 文化発表会や学年の取り組み等を通して命の大切さや、互いに思いやる心を育成することができた。			
② 各教科の授業や日々の取り組みを通し、他者に対し思いやりを持つよう指導することができた。			
次年度への改善点			
普段の学校生活においても人権感覚を育成できるように①、②を継続して取り組む。			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(15) 国際理解教育

目標 世界の多様な文化や歴史について学び、他者を尊重しようとする態度を養う。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
【国際理解】 自国だけではなく、さまざまなルーツを持つ生徒がお互いの国の文化や歴史を知り、相互理解を深めることで、違いを認め、尊重し合える関係をつくる。多文化クラブの活動の取り組みなどを通して、国際理解意識を高める。		B	B
【国際貢献】 日本と他の国との関係を、歴史経過、歴史問題や現在の問題などを学習し、平和への意識を高める。		B	
結果と分析			
① 月 1 回の多文化クラブの活動を通して、さまざまな国の言葉を学んだり遊びを体験したりして、国際理解意識を向上させることができた。			
② 1 年生は、世界で行われている戦争や紛争について学び、平和人権登校日に平和学習実行委員会の生徒が発表を行った。また、「火の海 大阪」を鑑賞し、戦争の恐ろしさについて学んだ。 2 年生は、広島と長崎の原子爆弾の被害について調べ学習を行い、平和人権登校日に発表を行った。 3 年生は、世界の紛争について調べ学習を行い、平和人権登校日に平和学習実行委員会の生徒が発表を行った。			
③ 橘小学校民族学級 30 周年記念式典に、橘小学校民族学級の卒業生からビデオメッセージとお祝いの言葉を送った。			
次年度への改善点			
・ 多文化クラブの活動への参加者を増やせるように、周知を徹底する。 ・ 行事を中心に、日常の学校生活や教科指導の中でも国際理解教育を意識して指導していきたい。			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(16) 図書館教育

目標 図書館に親しみ、読書を楽しむことを通して、豊かな人間形成や情操を養う。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【読書意欲の向上】	毎日開館することで、図書館利用の機会を増やす。本の魅力を伝える機会を増やし、読書意欲を喚起する。	B	B
② 【広報活動の活性化】	本の紹介や、図書の展示物の作成など図書委員の活躍の場を作る。 さまざまな場面で図書室の利用を呼びかけ、本を目にする機会を増やす。	B	
③ 【書籍の充実】	魅力的な本、調べ学習に役立ちそうな本を優先的に購入するようにする。	B	
④ 【読書環境の整備】	生徒が気軽に利用しやすい環境を作る。	B	
結果と分析			
① 元気アップや図書館コーディネーターの方のご協力もあり、ほぼ毎日開館することができた。また、月に 2 回のランチタイム放送も行った。朝に読書の時間を設定し、読書意欲を喚起した。			
② 前期、後期に 1 回ずつ図書委員によるおすすめ本のポスターを制作した。また、図書委員が先生におすすめ本に関するインタビューを行い、毎月発行している図書だよりに掲載した。			
③ 先生方に図書館においてほしい本のアンケートを実施し、蔵書を充実させた。			
④ 粗大ごみの廃棄などを行い、図書室の環境を整備した。			
⑤ 7 名の生徒が年間読書冊数の目標である 25 冊を達成することができた。			
⑥ 図書委員と美術部が連携して、来年度の読書の木の制作を行った。			
次年度への改善点			
図書室の利用者が少ないため、図書委員の活動を充実させて利用者を増やす。図書委員の指導を徹底し、当番などの活動を実践に行わせる。			
図書委員を中心に図書室の環境整備や読書の推進を行い、年間読書冊数の目標である 25 冊を達成する生徒を増やす。			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(17) 視聴覚教育

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【文化的取り組みの充実】 芸術鑑賞を企画し、滞りなく実行する。	A	B	
② 【掲示教育の充実】 掲示板に生徒の目をむかせるような様々な工夫をする。	B		
③ 【視聴覚機器の整備】 機器の場所や数などを把握し、いつでも誰でも使いやすいようにする。	B		
結果と分析			
① 12月5日実施でき生徒たちも興味津々で鑑賞することができていた。			
② 学校のルールや図書館の利用状況などが美術部の協力でわかりやすく、注目される掲示物になっている。また、各委員会により学校生活に関するポスターが作成されており、様々な所に掲示されている。			
③ 視聴覚機器を丁寧に扱っており、紛失などが減少している。			
次年度への改善点			
視聴覚機器の管理をさらに改善、継続し取り組んでいく。 来年度機器の充実を図っていきたい。			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(18) 生活指導

目標 規律ある生活態度を身につけさせ、常に他者を意識させる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
 C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【基本的生活習慣の確立】 「時間を守る」「あいさつ・返事をする」「正しい言葉づかいをする」「正しい身だしなみ」といった学校における基本的生活習慣の確立に重点をおいて指導する。	B	B	
② 【規範意識の育成】 日々の登校指導などの生徒指導だけでなく、教科指導や道徳教育、特別活動などすべての教育活動のなかで規範意識を育んでいく。	B		
③ 【生活指導上の課題への対応】 ・毅然とした姿勢で、繰り返し指導していく。学校としての生活指導の枠組みを理解させ、課題を明確にし、保護者の理解も得ながら丁寧に指導していく。 ・発達段階に応じた指導として、教師主導の他律的な指導から、生徒会や生徒委員会を使った自律性を養う指導へと移行していく。横の繋がりを大切にさせる。 ・「いじめ」の早期発見について、アンケートなどを行い、積極的に取り組んでいく。	B		
④ 【安全教育】 避難訓練を行い、地震・津波・火災などの被害や対策について理解させる。	B		
⑤ 【家庭・地域との連携】 地域巡視や学校行事等を通して連携を図る。	B		
結果と分析			
①学校における基本的生活習慣については、概ね定着している。場面によっては、正しい判断や行動ができないことがあるため、その都度改めさせ、継続的に指導することができた。			
②学校生活の様々な場面で集団の中の自分を意識させることができた。			
③様々な事案に対して、粘り強く指導することができた。また、生徒会や生徒委員会の生徒を中心に多くの生徒が活躍できる場をつくることができた。			
④地震・津波の避難訓練を実施した。また、火災の避難訓練及び、防災講座を区役所・消防署と連携し行うことができた。			
⑤可能な範囲で地域との連携を図ることができた。			
次年度への改善点			
教職員の情報共有をより密にし、今後も指導を継続していく。			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(19) 健康管理

目標 自らの健康に配慮できる生徒の育成を行う。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【健康の生活習慣】 基本的な生活習慣を身につけさせる。保健だよりを年11回発行し、啓発を図る。1年生に「歯と口の健康づくり」について指導する。	A	B	
② 【食育】 身体は食事で作られることを理解させ、食育通信を発行し、啓発活動に努める。	A		
③ 【現代的課題】 熱中症予防・感染症予防・薬物等について理解させる。保健だよりやポスター作成などを通して具体的な方法を指導し、2年生向けに薬物乱用防止教育を実施する。	A		
④ 【環境整備】 保健委員会活動を中心にし、美化・環境整備の啓発活動を行っていく。	A		
⑤ 【家庭・地域との連携】 学校保健への関心を高める。学校保健委員会を年度末に実施し、家庭・地域と交流を進めていく。	B		
結果と分析			
① 保健だよりの発行をし、基本的な生活習慣を身につけさせるようにしている。1年生の「歯と口の健康づくり」については1月に実施した。			
② 食育通信の発行をし、食事の大切さを啓発した。			
③ 文化発表会では保健委員会による栄養教諭と給食調理員さん5名と給食についての交流を行い、その結果をまとめ展示部門で発表の場を設けた。 2年生の「薬物乱用防止教育」については11月末に実施した。			
④ 毎月保健委員会の呼びかけによる、清掃強化週間を実施し年2回表彰を実施する。（後期分は3月予定）			
⑤ 小学校に赴き給食についての交流。その後栄養教諭の先生が来校し中学校の給食の保存の場所や準備の仕方やなど教室にも入って頂き、小中交流を2学期に実施した。また、3学期にはアレルギー対応の「つばさ」の研修を実施した。			
次年度への改善点			
・ 生徒が主体的に活動する取り組みを実施する。			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(20) 研修

目標 各教科・領域にわたり幅広く研修を実践し、教師力・組織力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【研修計画】各部領域と連携し、授業研究をはじめ、学校現場の身近な問題に対する研修会を計画・実施していく。	B	B
② 【授業研究】第3教育ブロック研究会やOJT（On The Job Training/ skillの伝承）の研修と連携した授業研究・研究協議を実施し、個々の授業力を高める。	B	
③ 【研究授業】1人1回研究授業を実施する。	B	
④ 【各種研修】各種の研究会・研修会の内容の啓発に努め、共通理解を深める。「天下茶屋プロジェクト」と連携し、若手育成のための研修を年3回実施する。	B	

結果と分析

- ① 総合的読解力の研修を行った。（教務部）
- ② 救急救命講習を実施することができた。（健康教育部）
- ③ 授業力向上の取り組みとして、年間1人1回の研究授業を順次実施している。参観は、一人2回と決めずに、それ以上でも積極的に相互に参観していけたらと思います。
- ④ 「天下茶屋プロジェクト」と連携した若手育成研修は、「こどもサポートネットについて」、「ヤングケアラーについて」のテーマで行った。若手だけでなく、全体にも勉強になる内容であった。（管理職）
今後、ICTの講習なども予定している。

次年度への改善点

- ・ 研究授業の参観の時間をできるだけとれるようにしていきたい。
- ・ 研修分野等の希望（こういう研修があればよい）などがあれば教えてください。

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(21) 天下茶屋プロジェクト

目標 学校の活性化に向け、教職員及び生徒会による組織的な取組みを展開する。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【生徒の実態把握と教育実践】年2回の生徒アンケートを実施し、学校生活に対する生徒の意識、生徒に必要な教育内容を把握して、教育実践につなげる。その後の教育実践の結果として「学校生活が楽しい」と答える生徒を80%以上とする。(R6 80%)	B	B	
② 【教職員のスキルアップ】外部の研修等に参加するなど、外部の情報を積極的に取り入れて研修内容の充実を図る。また、先輩教員から若手教員へ「教師力向上」のための「知識や技能」「知恵」を伝えていく職場の気風を醸成させ、教科指導、生活指導における教職員のスキルアップを図る。	B		
③ 【外部機関との連携】大阪市教育委員会や大学などによる外部機関の支援のもと、校内研修の充実を図り、校内研修に対する教職員満足度を80%以上とする。また、PJの取組みを、教育関係者や地域などに積極的に発信する。	B		
④ 【生徒会活動の活性化】特別活動における生徒会活性化との連携を強化し、生徒会本部の強化を図る。生徒会主催の「校内自主清掃活動」などのボランティア活動を実施し、自己肯定感の向上を全校生徒に広げる取組を進める。	B		
結果と分析			
① 2学期に実施した生徒アンケート「学校生活は楽しい」の項目では、肯定的な回答が85%で目標を達成できた。			
② 「生活指導」や「総合的読解力育成カリキュラム」などのPJの校内研修で教職員の共通理解やスキルアップを図ることができている。			
③ 大阪市教育センターのスクールアドバイザーと連携して若手教員を中心に授業力アップを図ることができた。			
④ 生徒会主催の「赤い羽根募金運動」や「児童見学交流会」を実施することができた。			
次年度への改善点			
「天下茶屋プロジェクト」を通して様々な面での教職員の共通理解を深めていくようなものにしていく。			
① 生徒アンケートの結果から成果検証を行い、今後の指導につなげていく。			
② 校内研修の内容をさらに充実させて、教育実践に活かしていく。			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(22) ICT

目標 ICT 機器を活用し、情報活用能力を養う。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

①【学習意欲の向上を図る】
 ICT 機器を積極的に活用し、学習意欲の向上を図る。

②【プレゼン能力の向上】
 資料を作成し、発表する機会を設けることで、プレゼンの能力の向上を図る。

③【情報活用能力】
 必要な情報を選択し活用できる「情報活用能力」の育成を図る。

取組内容（指標）	達成状況	
①【学習意欲の向上を図る】 ICT 機器を積極的に活用し、学習意欲の向上を図る。	B	B
②【プレゼン能力の向上】 資料を作成し、発表する機会を設けることで、プレゼンの能力の向上を図る。	B	
③【情報活用能力】 必要な情報を選択し活用できる「情報活用能力」の育成を図る。	B	
結果と分析		
① ICT 機器の活用に積極的に取り組み、わかりやすい授業を心がけている。また、一人一台端末で調べ学習や Microsoft Forms を活用し、学習意欲の向上を図っている。 ②授業や学年の取り組みで、資料作成をする機会を設けている。 ③調べ学習では、様々な資料を吟味し活用することができている。		
次年度への改善点		
今後も継続して取り組んでいくとともに心の天気の活用率も上げていきたい。		

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(22) 通級指導教室

目標 個々の特性に合わせた自立活動を行う。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
①【個に応じた指導】 社会的な自立を目標に、特性に鑑みる自立活動を進める。	B	B
②【特性の内容に合わせた課題解決】 個々人の課題解決能力を高める活動をする。	B	
③【PDCA サイクルに基づく指導内容の改善】 定期的に個々の取り組みの指導内容を改善していく。	B	
結果と分析		
① 本人との相談・アセスメントを通じて活動している。		
② 活動はできつつあるが、放課後の時間帯で忘れる生徒が多いのが現状。		
③ 学期ごとの見直しはできている。		
次年度への改善点		
・現１年生での通級では、放課後等の時間で授業をしているが、次年度以降、通常授業内での抽出（放課後等ではない）による通級が始まった場合、各教科の抜けた授業補填策をどうしていくかのコンセンサスは全くできていない。成績にかかわることから個別の対応が必要なだけに、各教科の授業内容や板書、プリント等の PDF 化など、授業が抜けた生徒に対してアフターフォローをどうしていくのか教科・学校としての対策が必要だと考える。		

教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の時間配当

(1) 時間配当

	教 科	1 年	2 年	3 年
必修教科	国 語	4	4	3
	社 会	3	3	4
	数 学	4	3	4
	理 科	3	4	4
	音 楽	1. 5	1	1
	美 術	1. 5	1	1
	保健体育	3	3	3
	技術家庭	2	2	2
	外 国 語	4	4	4
道 徳		1	1	1
特別活動		1	1	1
総合的な学習の時間		1	2	1
合 計		2 9	2 9	2 9

(2) 日課表、週時間表 ※○は必修教科

時 程		月	火	水	木	金
8:25 予鈴						
8:30	短学活 (集会) 職朝		(全校)	(3年)	(2年)	(1年)
8:50						
	第1限	○	道徳	○	○	○
9:40	(休憩)					
9:50						
	第2限	○	○	○	○	○
10:40	(休憩)					
10:50						
	第3限	○	○	○	○	○
11:40	(休憩)					
11:50						
	第4限	○	○	○	○	○
12:40						
13:20 予鈴	昼食 休憩					
13:25						
	第5限	○	○	○	○	総合
14:15	(休憩)					
14:25						
	第6限	○	○	○ 2年総合 ○	特活	(補)
15:20	清掃					
15:35						
15:50	終学活					
16:00						
17:00	部活動 下校					

令和7年度 校務分掌

【教務部】部長（教務主任）－濱中 副部長－高橋 進路指導主事－坂田

教 務 (濱中)	行事の予定・調整（月間・年間行事予定表）、日課表	濱中		
	儀式に関する事項（入学式・卒業式等）			
	運営委員会・教育課程委員会などの運営			
	新入生受け入れに関する事項 （小中連絡会・小学校保護者への入学説明会） （新入生受け入れ書類〔就学通知書・指導要録抄本・就学予定者名簿〕の整理）			
	学校現況調査			
	生徒の進級・卒業に関する事項	学年主任		
	学級編成、教室配当			
	通知表・成績原簿・生徒氏名印など	濱中		
	学習カリキュラムの編成・定期テストの実施計画			
	教育指導計画に関する事項（資料作成、製本）			
庶 務 (濱中)	出席簿の整理点検と保管、授業時数調査、指導要録・抄本の整理・点検	1 年	2 年	3 年
		檜谷	坪内	白河
	転出入に関する事務	濱中		
	テスト問題の保管、成績一覧表等の管理・保管、	坂田	坪内	白河
	成績処理に関する業務	檜谷	高橋	白河 濱中
	教務諸用品の準備と整理（出席簿・教務必携など）	全員		
	補欠授業の割当てに関する事項	全員		
	生徒名列表に関する事項	全員		
	行事予定表掲示（職員室）	濱中		
	SKIP 諸設定全般（クラス編成 テスト素点成績関係）	濱中		
時 間 割 (濱中)	授業時間割編成	濱中 白河 坪内 檜谷		
	チャイムの操作	坪内 袋谷		
	特別観時間割の編成	濱中		
教 材 (高橋)	教科書・指導書に関する事項	高橋		
	副読本・参考書・問題集その他の教材の採択事務			
研修・研究 (坂田)	教育実習に関する事項	坂田		
	講習会・研修会・視察等の教職員研修に関する事項 （校外研修のとりまとめ・案内）	坂田		
	統計教育・教育統計に関する事項			
	校内研修の企画・立案			
進路指導 (坂田)	企画立案	坂田 白河		
	進学・就職の資料作成 前年度資料の整理・保管			
	進路指導用テストに関する事項			
	進路指導に関する事項の研究と推進			

	職場訪問（アフターケア）			
総合学習 （瀧中）	職場体験の企画・立案 総合学習の記録	高橋		
	各種鑑賞・行事の企画 芸術鑑賞について	坪内 袋谷		
	揭示教育	坪内 袋谷		
	視聴覚機器（放送・パソコン・プレーヤー・ビデオ・プロジェクター）の管理	中塚	高橋	白河
学校図書館 （生駒）	企画・運営 図書の選択・整理	坂田 檜谷		
	図書委員会の指導 図書の貸し出し			
	図書館施設・備品の管理 図書館便りの計画・発行			
キャリア P （瀧中）	プリントを検討・計画	坂田	高橋	

【 健康教育部 】 部長－角床

副部長－アン－坂本

保健主事－角床

美 化 （角床）	清掃用具の配当	全員
	清掃区域の分担割当て 清掃指導	全員
	清掃点検	全員
	机椅子等の調査管理	松下・松林・山根
	カーテン・ストーブ・加湿器の配給回収 及び備品回収	全員
保 健 （米戸）	保健室の整備 保全	米戸
	健康診断・結核診断の企画と実施	米戸・その他全員
	予防接種 検尿など保健衛生に関する事項	米戸・その他全員
	救急措置	米戸・その他全員
	保健衛生に関する調査と資料の整理保管	米戸
	便所 水飲み場などの衛生管理	米戸
	日本スポーツ振興センターの事務	米戸
	学校保健法による医療に関する事務	米戸
	地域関係機関との連絡	米戸・角床
	保健関係文書帳簿の整理保管	米戸・角床
	保健委員会の指導	全員
給 食 （アン坂本）	給食担当	アン－坂本・角床・松林

【 生活指導部 】 部長－田川 副部長－角田 生徒指導主事－岡崎

《生活指導係》

企 画 (岡崎)	生徒指導に関する研究および研究会の運営	岡崎・田川
	関係諸機関との連絡調整	岡崎
	家庭訪問の計画と推進	岡崎
	生徒連絡カードの整備・生徒写真	田川・角田・設楽
	小中連絡会	田川・岡崎
	学級日誌に関する事項	岡崎
	公文書の整理と保管	岡崎
生活指導 (岡崎・田川)	教育相談 生徒相談	岡崎・田川・全員
	企画 運営 調査 研究 相談活動	岡崎・田川
	登下校指導	全員
	生徒指導についての連絡および記録の保管	岡崎・田川・大本・西川
	生徒実態調査 長期欠席生徒調査	岡崎
	生徒手帳	田川
	生徒写真	田川
	遺失物	西川
部 活 動 (田川)	部活動の編成と運営	田川・角田・大本
	部活動の予算	田川・角田・大本
生 徒 会 (大本)	生徒委員会の指導	全員
	生徒集会	全員
	生徒会指導	大本・田川・井澤・坂口・角田

《安全教育係》

安全教育 (田川)	災害救助隊の編成	岡崎・田川
	避難訓練	井澤・生駒・坂口・岡崎・田川
	安全指導（交通など）	設楽・角田・岡崎・田川

【 道徳教育推進委員会 】委員長（道徳教育推進教師）－松林 副委員長－設楽

道徳教育	道徳教育の企画・立案	松林
	「道徳の時間」の企画・立案	井澤 岡崎 アン-坂本
	学年教材管理	中塚 岡崎 アン-坂本

【 国際理解教育委員会 】委員長（外国人教育主担者）－檜谷 副委員長－坪内

国際理解 教育	国際理解教育の企画・立案	檜谷
	外国人教育（在日外国人生徒の把握・連携等）	檜谷
	カンパニー	坂田 山根 奥林
	小中連絡会	濱中

【 人権教育委員会 】委員長（同和教育主担者）－大本 副委員長－田川

人権教育	人権教育の企画・立案	大本 松下 袋谷
	人権教育実践交流会	大本
	平和登校日	全員
	性教育（命の教育）	学年

【 ICT 教育推進委員会 】委員長－白河 副委員長－生駒

ICT 教育	視聴覚教育の計画・研修	白河 生駒
	一人一台端末の管理	全員
	端末のアカウント・ID の発行	白河 生駒
	視聴覚機器（ビデオカメラ・デジタルカメラ・プロジェクター・マイク・DVD ドライブ）の管理	西川 高橋 白河
	故障端末の報告	白河

【 事務室 】 谷口

一 般	庶 務	学割の発行	谷口
	文 書	文書の収受・発送・保管	谷口
会 計	公金会計	学校維持運営費に関する事務	谷口
		就学援助費	谷口
	公金外会計	徴収金会計収支責任者	谷口
		徴収金会計出納責任者	教頭
	物品会計	備品・消耗品に関する事務	谷口
	人 事	転退入教職員手続き事務	谷口
	給 与	給与	谷口
		旅費	谷口
	福 利	共済組合関係事務	谷口

【 管理作業員室 】 徳永

営 繕	徳永
清 掃	徳永
園 芸	徳永
給 湯	徳永

校務分掌・委員会組織

		1 年	2 年	3 年	
校務分掌	教 務 部	坂田 檜谷 中塚	高橋 坪内	濱中 白河 袋谷	
	生活指導部	角田 井澤 西川	岡崎 大本 坂口	田川 設樂 生駒	
	健康教育部	角床 長島 松下	松林 奥林	アン-坂本 山根	米戸
四委員会	道徳教育 推進委員会	井澤 中塚	松林 岡崎	アン-坂本 設樂	
	国際理解 教育委員会	檜谷 坂田	坪内 奥林	濱中	
	人権教育委員会	角床 松下	大本 坂口	田川 袋谷	
	ICT 教育 推進委員	西川 角田	高橋	白河 生駒	
主 任 会		松下 角床	高橋 岡崎	設樂 田川 濱中	校長 教頭
修学旅行委員会・予算委員会・施設整備委員会を兼ねる					谷口
運営委員会		松下 角床 長島	高橋 岡崎	設樂 田川 濱中	校長 教頭
特別 委員会 1	文化発表会 実行委員会	長島 角床 檜谷 松下	大本 松林 奥林 坂口	白河 設樂 山根 濱中	
	体育大会 実行委員会	井澤 坂田 角田 西川 中塚	岡崎 高橋 坪内	生駒 田川 袋谷 アン-坂本	
特別 委員会 2	特別支援教育 委員会	全教職員			校長 教頭
	いじめ防止対策 委員会	松下 角床	高橋 岡崎	設樂 田川 濱中	校長 教頭
	食物アレルギー等 対応検討委員会	角床		アン-坂本	校長 教頭 米戸
	進路指導委員会	坂田 松下	高橋 岡崎	白河 設樂 生駒 田川 アン-坂本 袋谷 濱中 山根	校長 教頭
	教育課程委員会	角田 井澤	高橋 大本 坂口	濱中 生駒 山根 白河 アン-坂本	校長 教頭

※「校務分掌」・「四委員会」・「特別委員会 1」については、いずれかに全員所属する